

彦根市立病院

地域連携 だより

彦根市立病院
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050 (代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



いつもありがとうございます

**私たち
病院薬剤師です**

薬剤部



あなたのお薬
減らしましょう!!

ポリファーマシーとは、Poly(多くの)+Pharmacy(調剤)の造語であり、薬剤が多い事で副作用が出やすくなり、自己判断での服薬中断や飲み忘れが発生しやすくなる事を言います。一般的に高齢になるほど複数の病気に係るリスクが高まると言われており、2015年に日本調剤株式会社が実施した「シニア世代の服薬の実態と意識」の調査では、高齢者の約半数が2か所以上の医療機関に通っており、特に75歳以上の患者さんでは、約4人に1人が7種類以上の薬を処方されているという報告があります。

当院では薬剤師の取り組みとして、減薬の提案を行っており、副作用や薬物有害事象のリスク低下、服薬アドヒアランスの向上に取り組んでいます。

また多くの薬が処方されるということは、国民医療費の増大にも繋がります。中でも調剤医療費に関しては、厚生労働省の調査によると2000年から2018年にかけて2.5倍以上にも増えて、2018年度には国民医療費全体の17.6%を占めています。当院の薬剤師によるポリファーマシー対策の取り組みは、患者のQOLの向上のみならず、国民医療費の削減にも貢献しています。

彦根市立病院 地域医療連携室

業務時間：月～金曜日：午前8時30分～午後7時（但し木曜日は午後5時15分）

土曜日：午前9時～午後12時30分

連絡先：地域医療連携室 TEL0749-22-6053(直通) FAX：0749-22-6093

ポリファーマシーって何？ ～多い薬は体に良くない？～

10
2022

◆ポリファーマシー対策の概要…

ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、内服数が多い事により服薬過誤、アドヒアランスの低下、薬物有害事象のリスク増加等の問題につながる状態の事とされています。実際に何剤からをポリファーマシーとするかについて厳密な定義はなく、患者さまの病態、生活環境により適正処方も変化します。



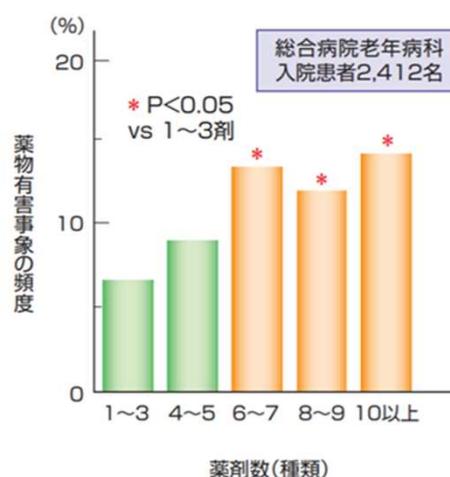
◆薬物有害事象の頻度…

薬物有害事象は薬剤数にほぼ比例して増加し、特に6種類以上内服していると薬物有害事象の発生が増加したというデータがあります。

一方で…

疾患(循環器疾患、糖尿病、慢性腎不全)によっては治療に6種類以上の薬剤が必要な場合もあれば、それ以下の内服数でも問題が起きる場合もあり、内服数ではなくその内容が重要だと言われています。

図1 服用薬剤数と薬物有害事象の頻度



(高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015 (日本老年医学会) より改変引用)

ポリファーマシーの是正に際しても、一律の剤数/種類数のみに着目するのではなく、安全性の確保等からみた**処方内容の適正化**が求められています。



その薬、なんの薬か知っていますか・・・ ～ポリファーマシー削減チームの取り組み～

◆ 当院の対策・・・

当院のポリファーマシーに対する取り組みとして2020年6月に**ポリファーマシー削減チーム**が発足しました。医師および看護師、薬剤師、診療情報管理師で構成されており、定期的なカンファレンスを実施しながら、多職種の見点から処方の見直しを行っています。



栄養サポートチーム(NST)や**認知症ケアチーム**と連携し効率的かつ効果的にポリファーマシー対策を行っています。

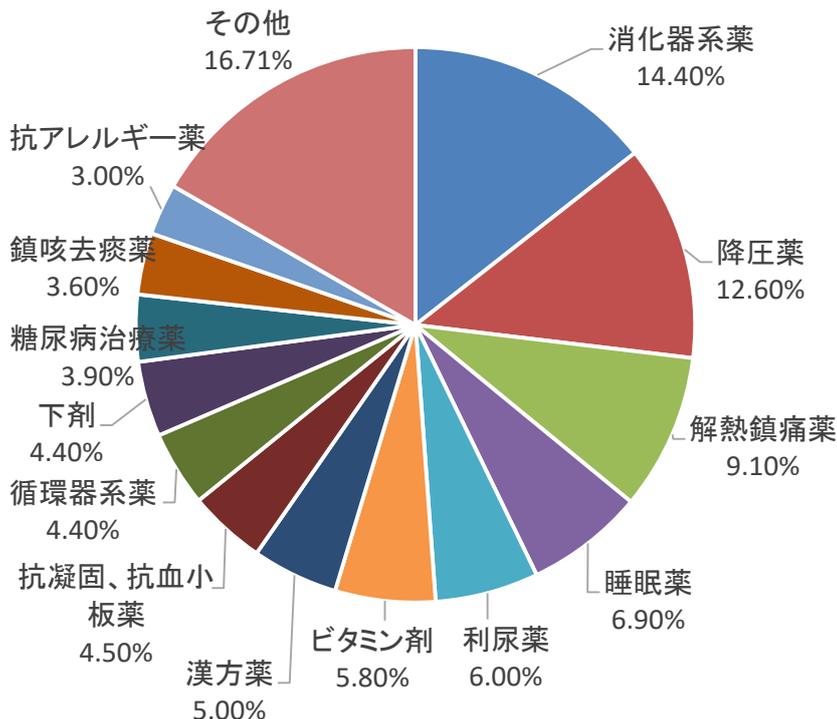
患者様またはご家族様の希望の確認

中止・減薬 薬剤を検討

調整後の経過観察

◆ 中止薬の薬効割合・・・

当院における令和3年度中止薬薬効別割合 n=779



前年度(令和3年度)当院では主に**対症療法薬の中止**が多かったです・・・



広げようポリファーマシー削減!! ～私たちも一緒に取り組みます～

◆地域の開業医や薬局との連携に関して…



継続的なフォローアップを お願い致します!

院内でポリファーマシー対策を行っても患者様が退院した後に元の処方に戻ってしまう場合があります。これを回避するためにも当院では**お薬手帳**や**トレーシングレポート**を活用し、可能な限り情報提供を行っていきます。

薬剤部の意気込み!

ポリファーマシー削減チームが発足以来、薬剤総合評価調整加算の算定件数全国1位を目指してポリファーマシーの改善に取り組んでいます。メディカルコードでの比較になりますが、前年度、当院は全国の4位、病床数400床以上の施設では全国3位と他院と比較しても上位の実績となっています。今後もポリファーマシー削減チームを中心に、ポリファーマシー対策を行っていきます。

◆啓発ポスター、院内に貼っています…

**あなたのくすり
いくつ飲んでいきますか?**



高齢になると、くすりの数が増えて副作用が起こりやすくなるので注意が必要です。

監修：東京大学大学院医学系研究科老年病学教授 秋下 雅弘
厚生労働省
制作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会
日本製薬工業協会



院内にはポリファーマシー啓発ポスターを掲示し、院内スタッフ全体と患者様への周知に努めております。

